

Ⅲ 重点施策への関心・認識

問 14 「脱炭素社会」を目指す取組は、あなたの生活を豊かにすると思いますか。(〇は1つ)

～「そう思う」が約半数～

「脱炭素社会」を目指す取組は、生活を豊かにすると思うかについて、そう思う(「そう思う」・「ややそう思う」の計)は49.3%、そう思わない(「そう思わない」・「あまりそう思わない」の計)は15.6%となっており、そう思うが約半数となっている。

年代別でみると、そう思う(「そう思う」・「ややそう思う」の計)は50歳代以上で高くなっている。

図38 「脱炭素社会」を目指す取組は、あなたの生活を豊かにするか(n=1,760)

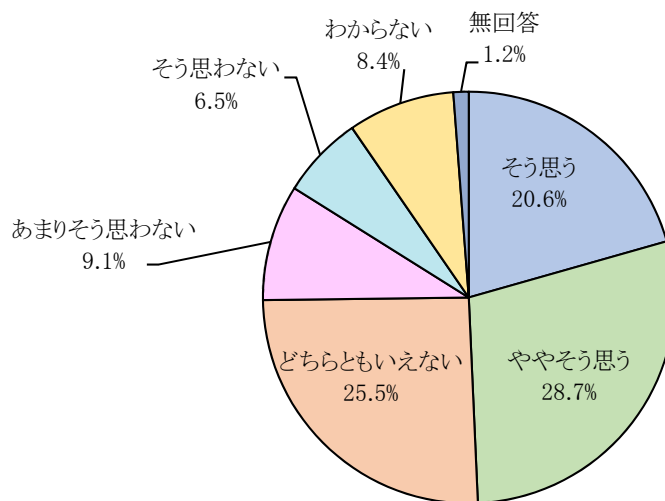
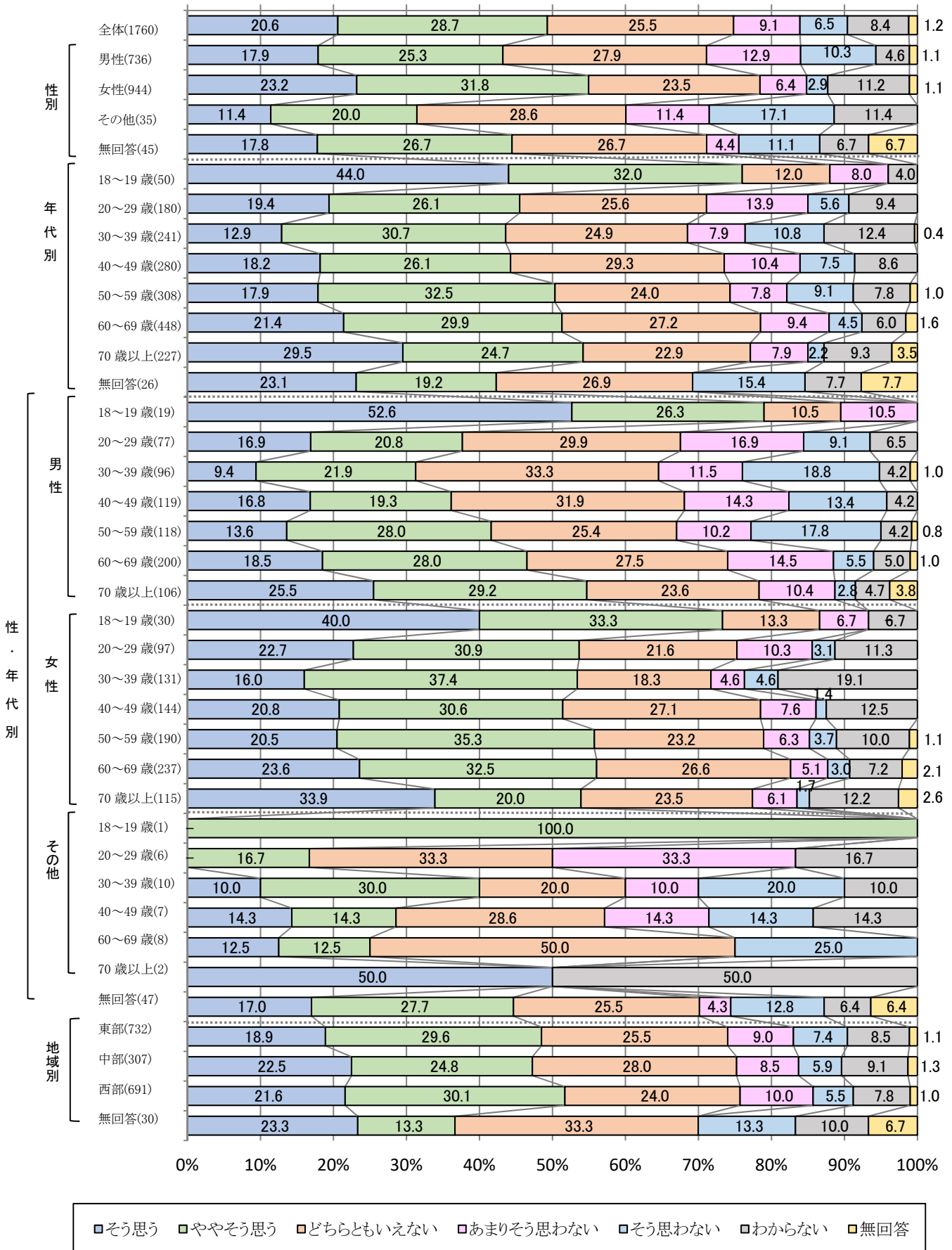


図39 「脱炭素社会」を目指す取組は、あなたの生活を豊かにするか
(性別・年代別・地域別)



問 15 「とっとりエコライフ構想」を進めていくうえで、あなたが特に重要と考える施策はどれですか。(〇はいくつでも)

～「森林の保全管理」が最も割合が高い～

「とっとりエコライフ構想」を進めていくうえで、特に重要と考える施策について、「森林の保全管理」が 53.3%と最も高く、次いで「エコカー(電気自動車(EV)、プラグインハイブリッドなど)の普及促進」が 35.5%、企業等の省エネルギー化(LED照明、断熱)が 34.2%となっている。

年代別でみると、「森林の保全管理」は 60 歳代以上で高くなっている。

性・年代別でみると、「エコカー(電気自動車(EV)、プラグインハイブリッドなど)の普及促進」は男性の 50～60 歳代で高くなっており、「企業等による大規模な太陽光発電などの再生可能エネルギー導入」は全ての年代で男性より女性が高くなっている。

図40 「とっとりエコライフ構想」を進めていくうえで、特に重要と考える施策(n=1,760)

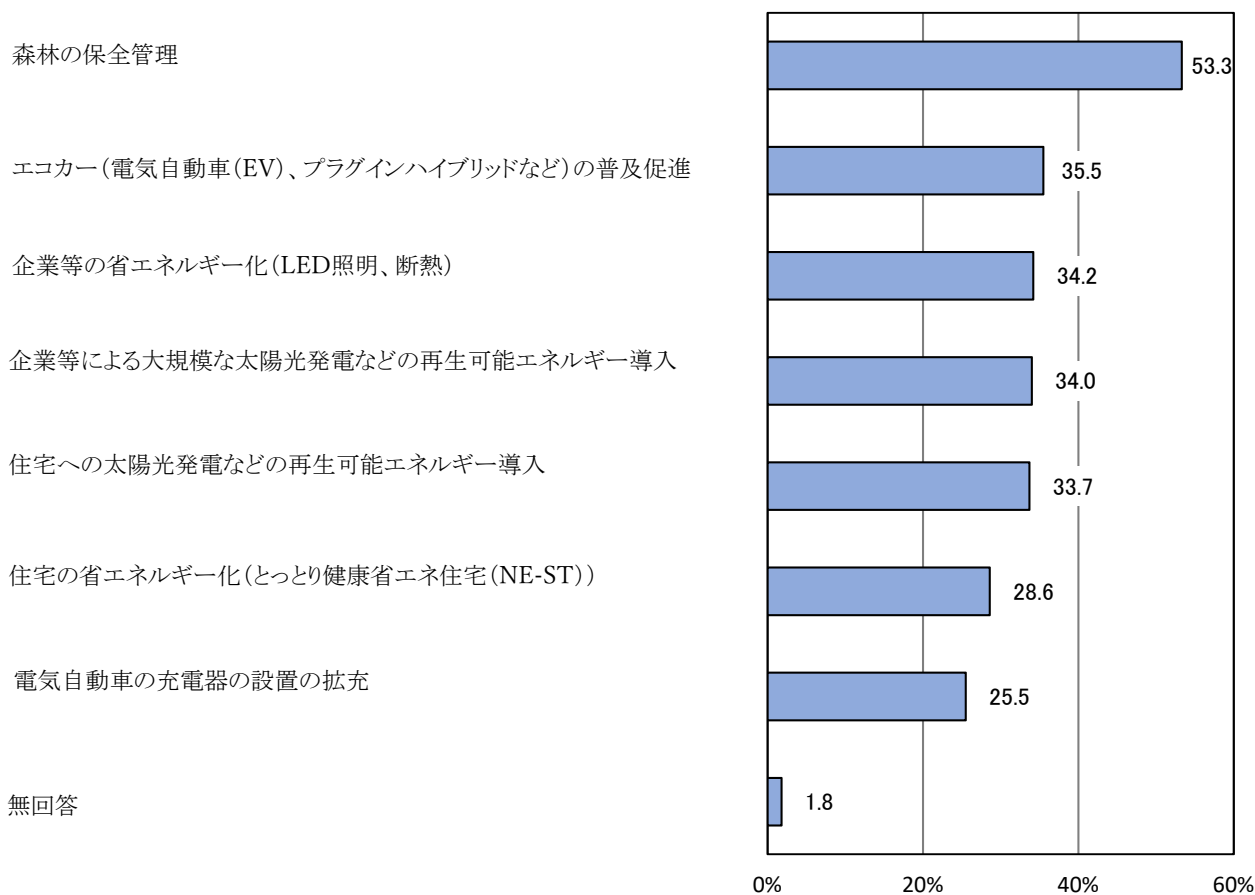
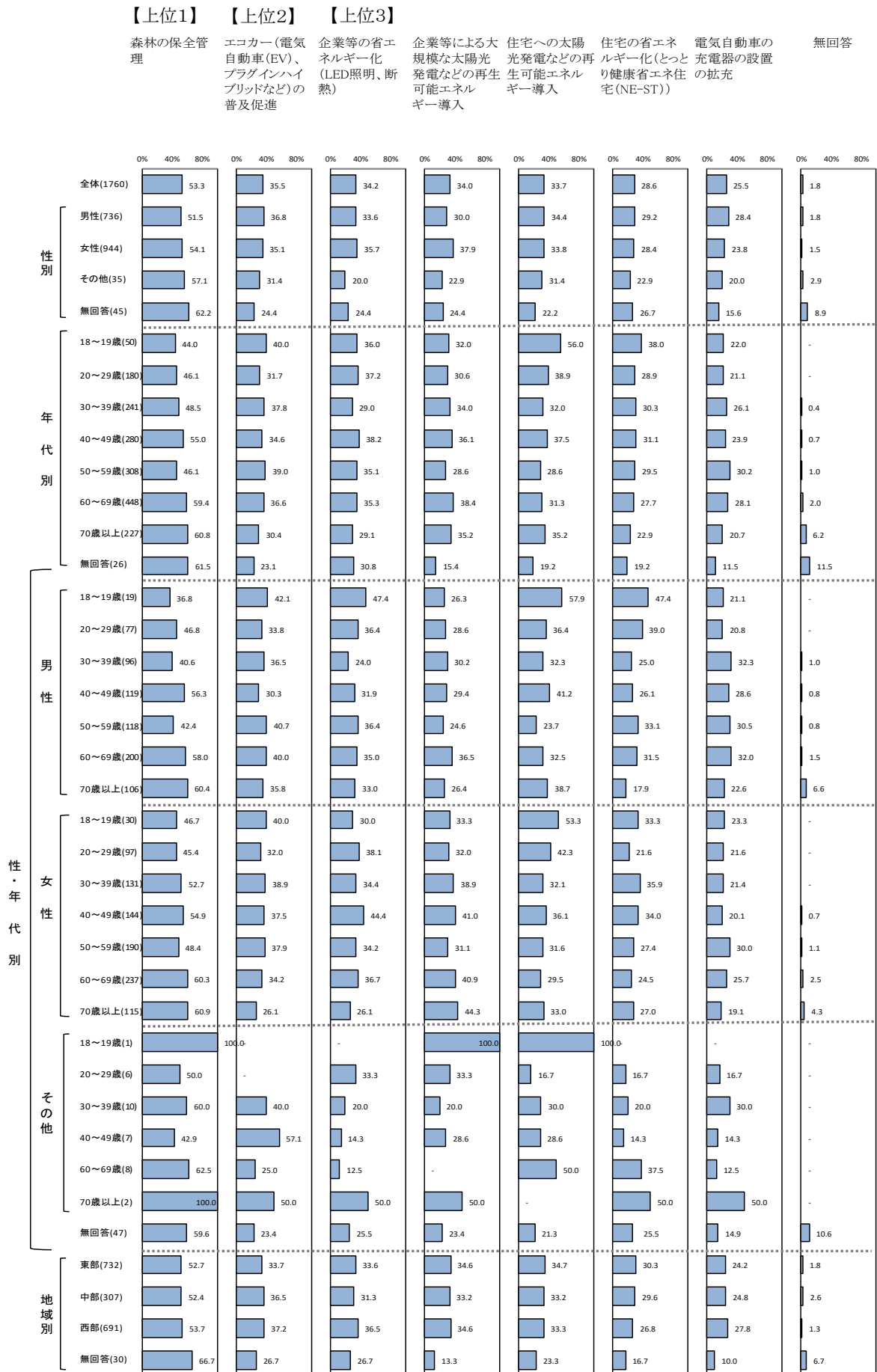


図 41 「とっとりエコライフ構想」を進めていく上で、重要と考える施策(性別・年代別・地域別)



問 16 電気自動車(EV)導入を促進するために、あなたが必要と思うことは何ですか。
(〇はいくつでも)

～「低価格化」「充電場所の拡充」「補助金の拡充」が高い～

電気自動車(EV)導入を促進するために必要と思うことは、「低価格化」が79.4%と最も高く、次いで「充電場所の拡充」が63.6%、「補助金の拡充」が49.4%となっている。

性・年代別でみると、「充電場所の拡充」は男性の60歳代で高くなっており、「走行距離の長距離化」は全ての年代で女性より男性が高くなっている。

図42 電気自動車(EV)導入を促進するために必要と思うこと(n=1,760)

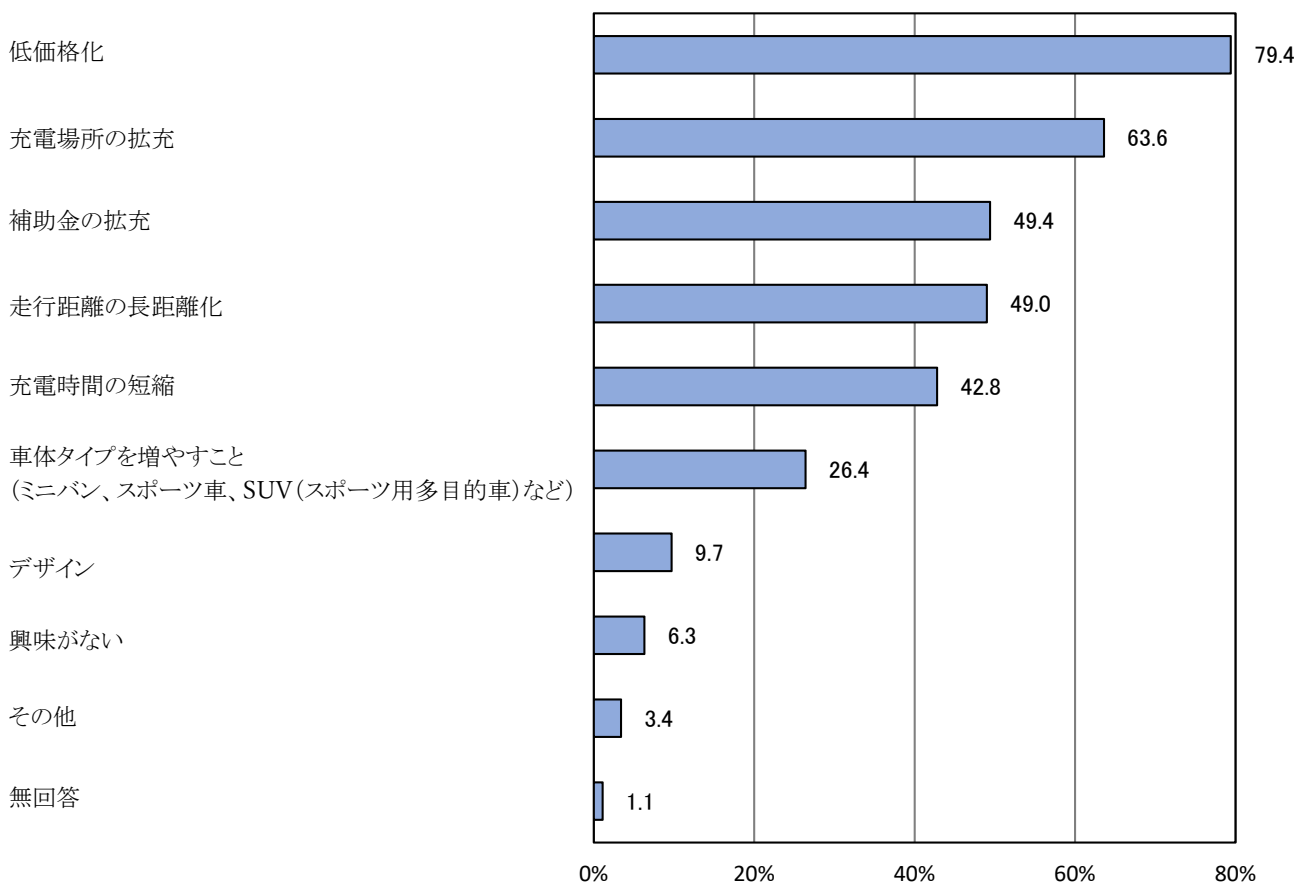
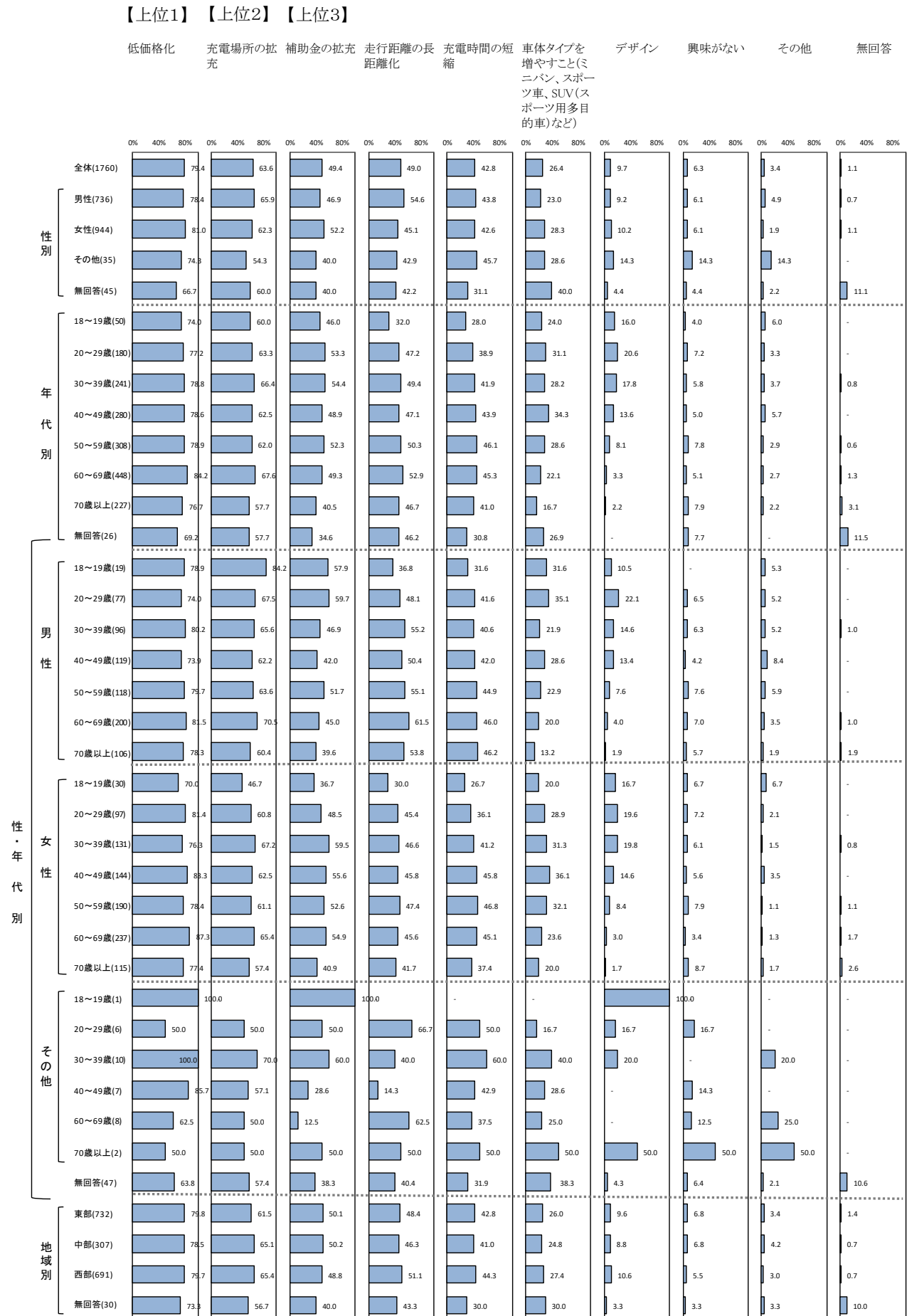


図 43 電気自動車(EV)導入を促進するために必要と思うこと(性別・年代別・地域別)



問 17 各家庭における太陽光発電設置についての設問です。

太陽光発電設備の設置時の初期費用が不要な「PPA(※1)」への関心度について、該当する数字に○をしてください。(○は1つ)

※1 PPAとは

自宅の屋根を民間の発電事業者に貸し出して、事業者が太陽光発電設備を設置することにより、自宅の所有者が初期投資の費用負担ゼロで太陽光発電設備を設置し、発電電力を自家消費する契約制度です。

～「関心がある」が約4割、「関心がない」が約3割～

太陽光発電設備の設置時の初期費用が不要な PPA への関心度について、関心がある(「かなり関心がある」・「少し関心がある」の計)は 37.7%、関心がない(「全く関心がない」・「あまり関心がない」の計)は 31.2%となっている。

年代別でみると、関心がある(「かなり関心がある」・「少し関心がある」の計)は 30～60 歳代で高くなっており、関心がない(「全く関心がない」・「あまり関心がない」の計)は、20～30 歳代で高くなっている。

図44 「PPA」への関心度(n=1,760)

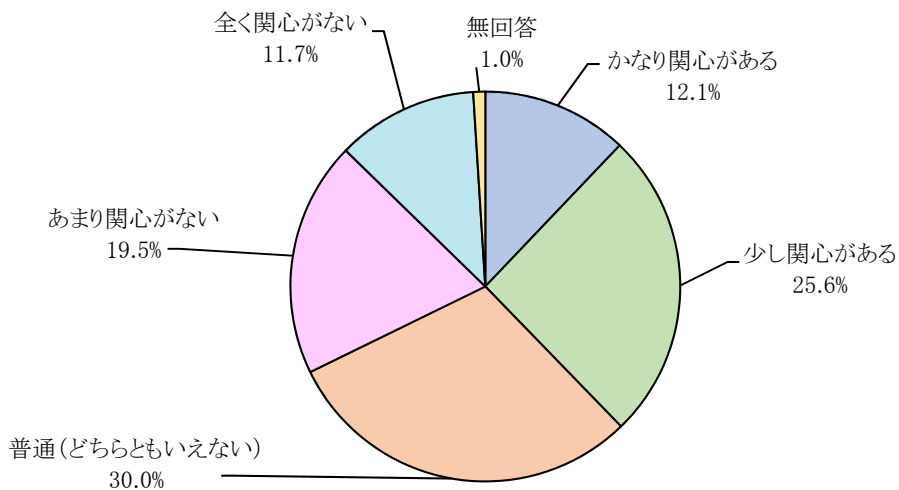
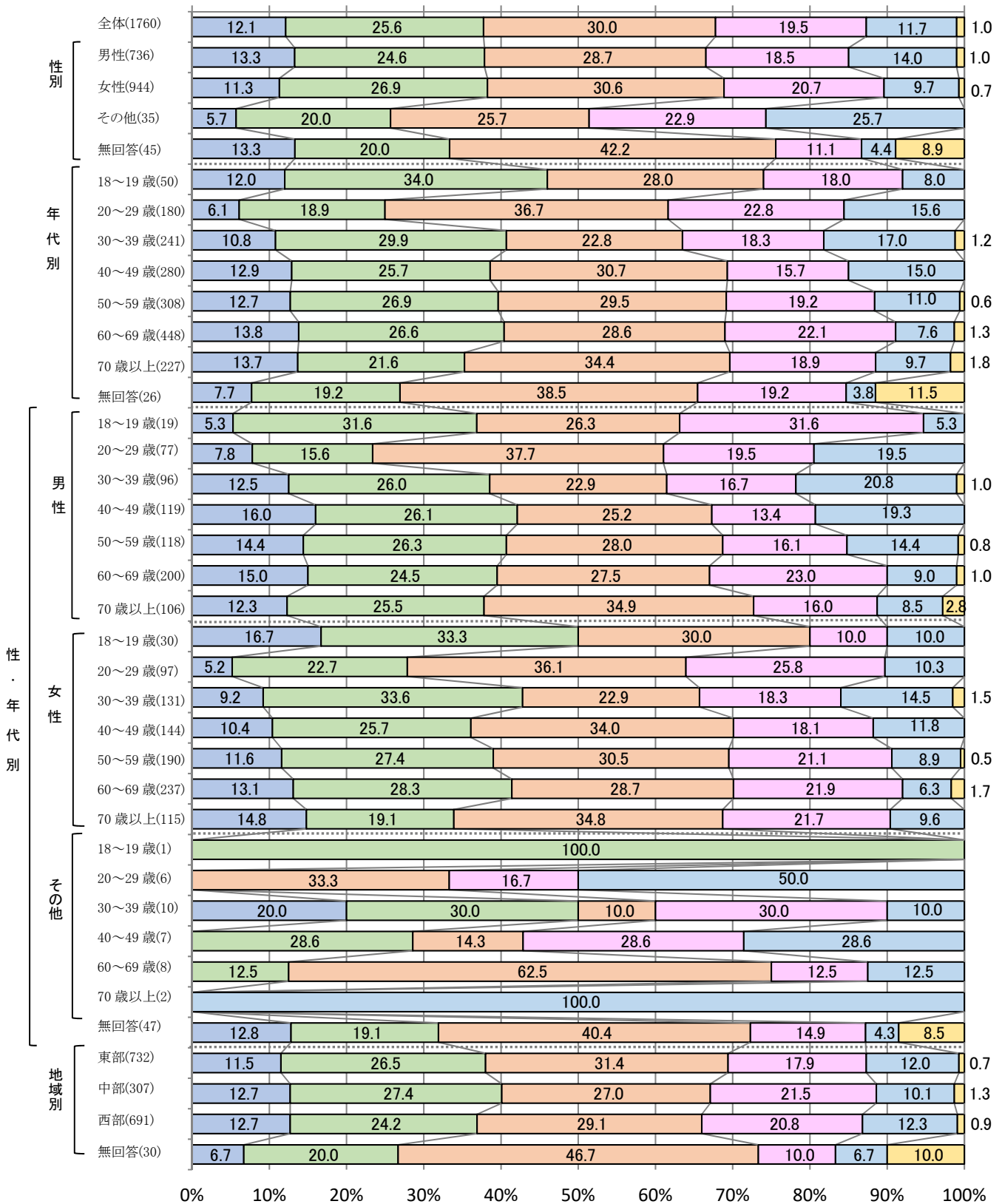


図45 PPAへの関心度(性別・年代別・地域別)



■かなり関心がある ■少し関心がある ■普通(どちらともいえない) ■あまり関心がない ■全く関心がない ■無回答

問 18 とっとり健康省エネ住宅(NE-ST(ネスト)※2)についての認知度及び関心度について、該当する数字に○をしてください。(○は1つ)

※2 とっとり健康省エネ住宅(NE-ST(ネスト))とは

国の基準を大幅に上回る鳥取県独自の住宅性能基準で、高断熱、高气密の家を実現することで光熱費を抑えることができるため、長期的(5～35年程度)に見れば工事費を含めても経済的であるほか、室温差が少ないことから冬季のヒートショックが起きにくく健康的に暮らせる基準です。

<とっとり健康省エネ住宅(NE-ST)の認知度>

～「聞いたことがない」が6割以上～

とっとり健康省エネ住宅(NE-ST(ネスト))の認知度について、「聞いたことがない」が62.5%と最も高く、次いで「聞いたことがあるが、内容は知らない」が29.2%、「だいたいの内容を知っていた」が6.8%となっている。

年代別でみると、「だいたいの内容を知っていた」は30歳代で高くなっている。

性・年代別でみると、「聞いたことがない」は男性の20歳代、40歳代及び女性の20歳代で高くなっている。

地域別でみると、「聞いたことがない」は中部地区で最も低くなっている。

図46 とっとり健康省エネ住宅について (①認知度) (n=1,760)

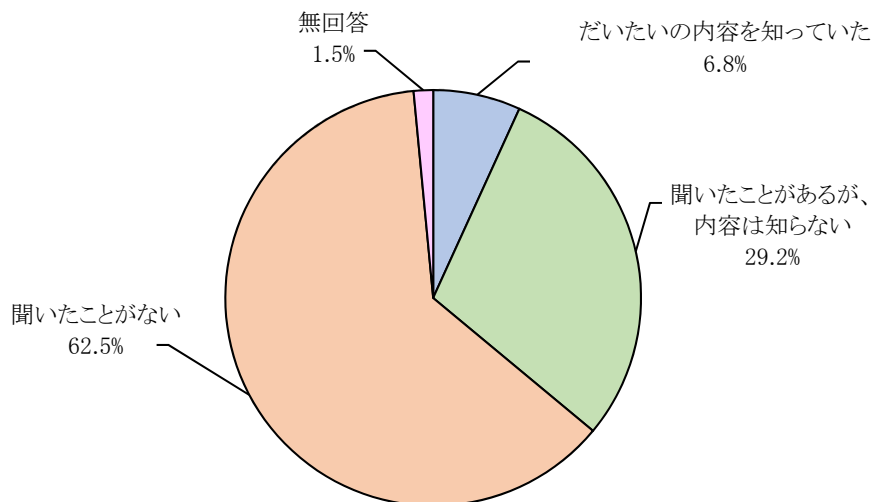
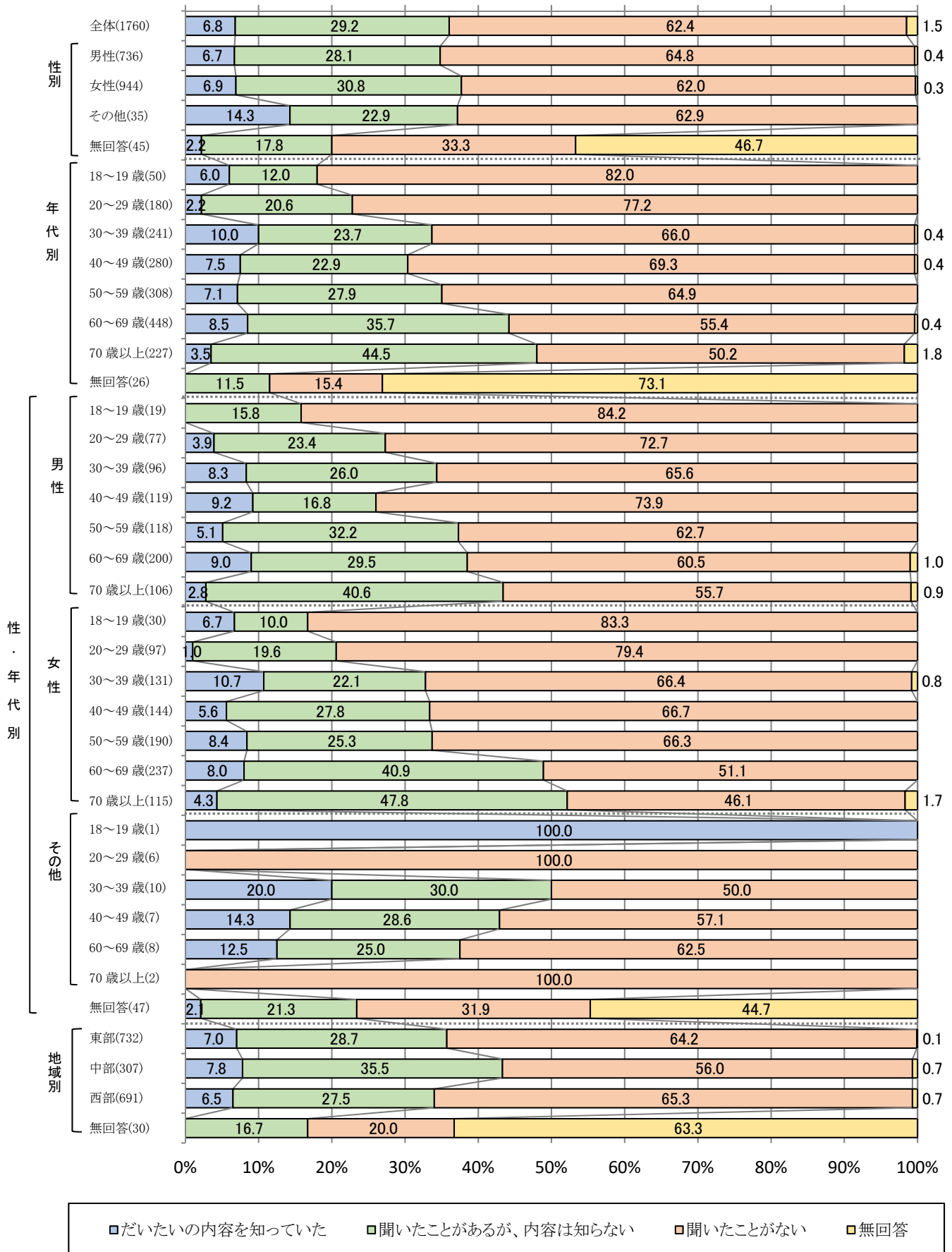


図47 とっとり健康省エネ住宅について (①認知度)(性別・年代別・地域別)



<とっとり健康省エネ住宅(NE-ST)についての関心度>

～「関心がある」「関心がない」が共に約3割～

とっとり健康省エネ住宅(NE-ST(ネスト))の関心度について、関心がある(「かなり関心がある」・「少し関心がある」の計)は 32.9%、関心がない(「全く関心がない」・「あまり関心がない」の計)は 32.2%となっている。

年代別で見ると、関心がある(「かなり関心がある」・「少し関心がある」の計)は 50 歳代で高くなっている。

性・年代別で見ると、関心がある(「かなり関心がある」・「少し関心がある」の計)は男性の 50 歳代で特に高くなっている。

一方、関心がない(「全く関心がない」・「あまり関心がない」の計)は男性、女性共に 20～30 歳代で高くなっている。

図48 とっとり健康省エネ住宅について (②関心度) (n=1,760)

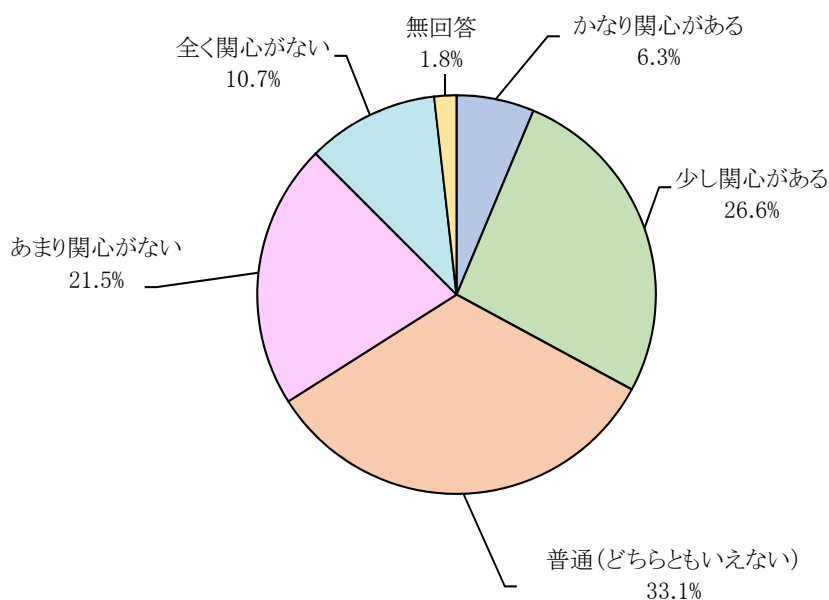
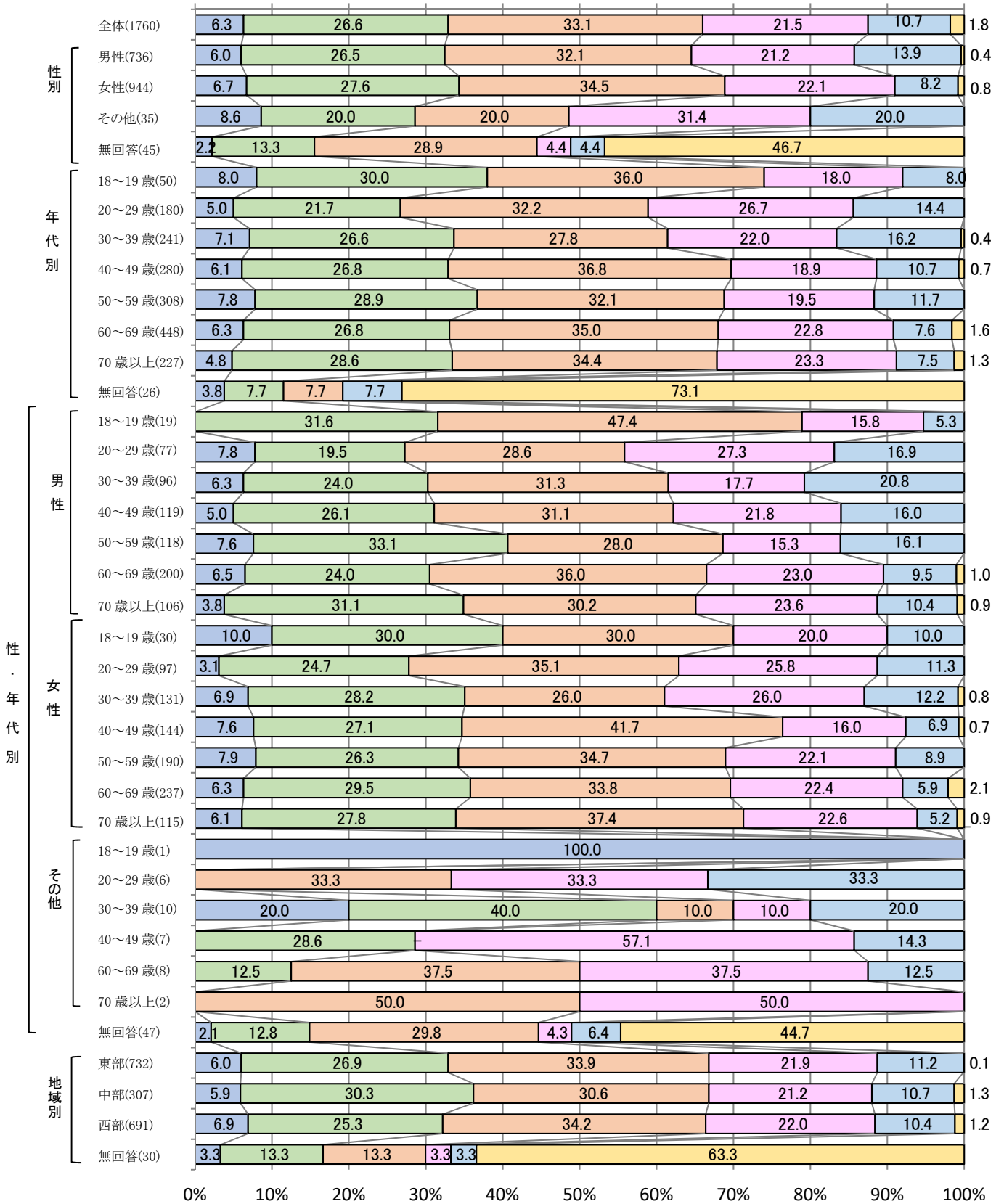


図49 とっとり健康省エネ住宅について (②関心度)(性別・年代別・地域別)



かなり関心がある
 少し関心がある
 普通(どちらともいえない)
 あまり関心がない
 全く関心がない
 無回答